

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 _____ 総社市

1 事業の趣旨・目的

日本語教育の知識に加え、スケジュールリングや場所の確保、運営スタイルの決定、グループのマネジメントなど、実際の教室運営に関する幅広い知識や情報を教授し、受講者自身が自分たちでどのような活動ができるのかを考える機会を与えることにより、日本語教室ボランティアの育成を行う。日本語教師やコーディネーターの力を借りながら連携・協力してボランティア教室の運営を行い、幅広い日本語教室受講者のニーズに柔軟に対応できるボランティア日本語教室の開講に向けたプランを構築できるようにする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月22日(水) 13:30 ～15:00	市役所2階 第2委員会 室	平松 秀昭 中東 靖恵 樂木 章子 谷井 武夫	「日本語教室の設置運営」 についての検討	各講座の概要(目的、対象者) 開催日程・期間・会場について 教授者ならびに補助者について 受講者の状況について(受講者 数、申込時アンケート)
9月16日(水) 10:30 ～12:00	総社市保健 センター2階 資料展示室	平松 秀昭 中東 靖恵 樂木 章子 谷井 武夫	「日本語教室の設置運営」 についての検討	各講座の概要(目的、対象者) 開催日程・期間・会場について 教授者ならびに補助者について 受講者の状況について(受講者 数、中間アンケート)
1月25日(水) 14:00～16:00	総社市保健 センター2階 資料展示室	平松 秀昭 中東 靖恵 樂木 章子 谷井 武夫	「日本語教室の設置運営」 についての反省、検討	後半の運営状況の報告 受講生アンケートの結果報告 ふりかえりと今後について

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 講座名: 地域に根ざした日本語教室ボランティア育成研修

(2) 開催場所: 総社市保健センター ほか

(3) 学習目標

(ア) 日本語指導経験豊富な講師を迎え、日本語の指導法を教授する。

(イ)会場確保の方法やスケジューリング, 日本語教室の運営など, 日本語教室ボランティア育成に必要な知識・情報を教授する。

(ウ)授業期間中, 当市が開催している日本語教室を見学し, またボランティアとして参加することにより, 実際の日本語教室を体験してもらう。

(エ)教室内での作業にグループワークを取り入れることにより, 受講者間の一体感を高め, ボランティア日本語教室の開講がスムーズに行えるよう相互協力体制の基盤を構築していく。

(4) 使用した教材・リソース: 講師自作教材, 『にほんごチャレンジ N4 文法と読む練習』, 行政機関発行のパンフレット(ごみの出し方, 防災情報)等

(5) 受講生の募集方法: 広報紙 6 月号, 公民館等文化施設へのチラシ配布。チラシは別紙。

(6) 受講者の総数 16 人

(出身・国籍別内訳 日本人 16 人)

(7) 開催時間数(回数) 30 時間 (10 回)

(8) 参加対象者の要件: 外国人に日本語を教えることに興味がある人。

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	6 月 5 日 (日) 13:30~16:30	3 時間	15 人	開講式 WS①自己紹介 概論①日本語教室の現状 ②日本語文法の復習 講座①教科書 1~3 課 宿題①文型を盛り込んだ会話シミュレーション作成	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳
②	6 月 19 日 (日) 13:30~16:30	3 時間	13 人	WS②文型会話シミュレーションの発表 講座②教科書 4,6 課 宿題②授受表現を説明するための会話を作る cf. マレー語(直接法)による授受表現の説明	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳
③	7 月 3 日 (日) 13:30~16:30	3 時間	10 人	WS③授受表現を説明する会話の演習 概論③自動詞と他動詞 講座③教科書 8,10 課 宿題③「V+ている」の例文を作り, 機能を考える	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳
④	7 月 17 日 (日) 13:30~16:30	3 時間	12 人	概論④「V+ている」の種類と機能について 講座④自動詞と他動詞の機能と活用について 宿題④これまでに習った文型を使い, 授業計画を立てる	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳
⑤	7 月 31 日 (日) 13:30~16:30	3 時間	10 人	WS④受講生の模擬授業 特講①日本語教育の実践について(現役日本語教師による体験談) 宿題⑤レポート作成 (日本語教室の見学)	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳 倉敷日本語教室 澤見 都
⑥	10 月 16 日 (日) 13:30~16:30	3 時間	7 人	WS⑤日本語教室見学についての報告会 概論⑤日本語活動指導論 「日本で暮らす外国人がトラブルに遭わないために必要な情報」 特講②ごみ出しについて外国人に説明す	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳

				る方法 宿題⑥ごみの出し方を説明する授業案を作る	
⑦	10月30日(日) 13:30~16:30	3時間	5人	WS⑥ごみの出し方の説明についての意見交換 概論⑥防災情報を外国人にわかりやすく伝える方法について 特講③やさしい日本語の作り方, 使い方 宿題⑦災害備蓄品についての案内をやさしい日本語で説明する	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳
⑧	11月13日(日) 13:30~16:30	3時間	7人	WS⑦やさしい日本語による災害情報への検討 概論⑦外国人をめぐる運転免許取得への現状 特講④運転免許試験で使われている日本語を文法的に観察する 宿題⑧仮定:自動車学校へ通っている外国人に「みんなの日本語」33課を指導する際の指導案を作成する	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳
⑨	11月27日(日) 13:30~16:30	3時間	5人	WS⑧受講生の模擬授業 概論⑧外国人児童生徒をめぐる日本社会での問題点について 特講⑤小学生(3年社会, 5年算数)の教科書で使われている日本語の特色を観察する 宿題⑨幼稚園の保護者向け月間通知の中から, 文化的に説明が必要な事項を選び, やさしい日本語で解説する	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳
⑩	12月11日(日) 13:30~16:30	3時間	9人	WS⑨やさしい日本語を用いた解説を行う 概論⑨外国人をめぐる医療の現状と課題 最終ディスカッション 「今後の活動について」 フェアウェルパーティー	岡山外語学院 /ONN 講師 青井 由佳

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート 講義終了後実施 ※アンケート様式は別添のとおり

主な意見)

- ・やって良かったです。改めて文法を意識できたし, 教える時の自信にもつながった。
- ・他の人のやり方はとても参考になった。研修する機会があり, 皆さんスキルアップをしている態度に刺激を受けました。
- ・このコースを終えて, 日本語を外国人に教えてあげるとはとても難しいことだと思っている。しかしこれから何らかの形で, 外国から人達が, 日本で少しでも暮らしやすくなるお手伝いができれば, と思っている。

②実施主体からの研修内容結果評価

講座開始時は受講生の大半が実際の日本語教室を見たことがないという状態であったが, 前期(3時間×5回)と後期(3時間×5回)の講座期間の中間に近隣の日本語教室を見学する期間を設け, 実際の日本語教育の現場に触れて具体的な活動へのイメージを固めてもらうことができた。また, 前期の講座では文法的な日本語教育の手法を学び, 後期には外国人住民に必要な日本での生活情報をどのように伝達する

かについて考えることで、受講生は「自分たちのできる活動は何か」と深く考えることができた。

受講生の中にはより専門的な知識習得を求めて日本語教師養成課程のある専門学校へ入学した者もいる。一方で、より具体的な活動について考えてゆく過程で、時間的制約や方向性の違いなど、実際に活動を行う上で課題があることも確認された。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・多文化共生推進事業(外国人コミュニティと地域住民との文化交流等)の促進
- ・AMDAグループとの多文化共生に関する協定(外国人住民への医療支援)に基づく国際理解学習、医療マップの作成等の事業実施
- ・外国人相談窓口での相談体制の充実
- ・外国人住民の子弟のための教育事業の推進
- ・日本語教室の設置による日本語教育機会の確保と、今後の運営を見越した人材育成事業の実施。
- ・外国人集住都市会議への参加と会員都市との連携

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

講座の中間期に日本語教室を見学しレポートを作成するという課題を設け、近隣の日本語教室とあわせて本市開催の外国人向け日本語教室も見学してもらい、日本語教育の現場と本地域の外国人が置かれている状況について学ぶ機会を設けた。

また、修了式後には受講生によって外国人支援ボランティアサークルの構築が提案され、平成24年1月現在、地域の外国人コミュニティが計画中的の日本語会話サークルと連携するために調整が進められている。

② 研修後の人材活用

メーリングリストを作成し情報共有を行う中で、国際交流イベントに参加して文化交流を試みる修了生や、スキルアップ研修会へ出席しより専門的な学習を志す受講生が現れている。また過年度の修了生にも本講座の情報や課題等を発信していった結果、本市開催の外国人向け日本語教室へボランティアとして参加し、補助員として活動する者もいた。

(12) 今後の課題

本市には受講生を受け入れられるようなボランティアの活躍できる場が少なく、また22年度、23年度と本市で開催した外国人向け日本語教室も専門知識と経験の豊かな教授者を外部から招いた講座形式のもので、日本語学習ボランティアを志すことを目的としたため、指導経験のない受講生には敷居が高いと感じられることもあり、指導法を教授することについては様々な困難が見られた。また、養成講座と並行して行われている日本語教室においても、より幅広い日本語学習者への対応を迫られるにつれ現状の講座形式のみの教室運営では限界を迎えつつある。

そこで、今後は専門知識を持つ教授者の傍で実際に指導経験を積みながら、実践の中で気づいた問題点を解消しステップアップを目指してゆく体制づくりが急務と考えられる。既存の日本語教室との連携や日本語指導経験者との協力関係を構築し、ボランティア希望者を教室の補助者として活用しながら、彼らが実践経験の中で学んでゆける教室運営を計画してゆく必要がある。

	前 半	後 半	タスクなど
① 6月 5日 (日)	開講式	「いる／ある」「ませんか」 等	
② 6月 19日 (日)		「やりもらい」	
③ 7月 3日 (日)		「自他」「V ておく」 など	
④ 7月 17日 (日)		「V ている」	
⑤ 7月 31日 (日)		教室見学について 沢見先生をゲストに	

	前 半	後 半	タスクなど
⑥ 10月 16日 (日)	夏の反省 これからやりたいこと	「ごみ」	
⑦ 10月 30日 (日)		「防災」	
⑧ 11月 13日 (日)		「免許」	
⑨ 11月 27日 (日)		「こども」	
⑩ 12月 11日 (日)		「病院」	

*このコースを受けるまでは_____

_____と思っていたが、

(実は) _____

_____ということがわかった。

*「3時間×10回」という長さは_____。

*前半と後半に分かれていたのは_____。

*隔週というスケジュールは_____。

*開講時期は_____。

→その他、時間・時期について

*「文法」についての授業（前半）は_____。
_____。

*「日本語教室の見学」は_____。
_____。

*「具体的な事例から」（後半）は_____。
_____。

*「宿題」は_____。
_____。

→その他、コースの内容について

*講師は_____。
_____。

もっと_____。
_____たほうがいいと思う。

→その他、講師について

*_____はよかった。
_____はあまり…。

もっと_____。

*このコースを終えて、_____。
_____と思っている。

これから_____。
_____。

地域に根ざした日本語教室ボランティア育成研修 最終アンケート

■この講座について

- ・このコースを受けるまでは、外国で暮らした経験がないので、外国の人が日本で暮らす大変さを理解できていなかったが、実は日常生活を送る上でも様々な場面で不便や困難、苦労があるということがわかった。
- ・このコースを受けるまでは、私にできるだろうか、どのような内容なのか、高度な日本語を学んでいなくてはだめだと思っていたが、実は日本語（日常話していることば）を客観的に見直して、韓国語の勉強にも役立つということがわかった。

■開催時間・頻度について

* 3時間×10回という長さは

- ・よかったです
- ・ちょうどよかった
- ・長すぎず、短すぎず、ちょうど良いと思いました。

*前半と後半に分かれていたのは

- ・熱意がとぎれた
- ・よかったです
- ・ありがたかった
- ・夏休みが少しあきすぎた感じがしました。（とはいえ課題をこなすのがギリギリになってしまったのですが）

*隔週というスケジュールは

- ・少し負担と思われた方が多かったのでは？ 月1回くらいが
- ・よかったです
- ・私にとってはありがたかった
- ・復習と課題をこなすためには良かったと思います。

*開講時期

- ・やはり春がやる気になるのでは
- ・どの時期でも突発的な用事 etc.あるので、この時期でよかったと思います
- ・もう少し早い時期に始めて10回という回数を増やしても良い？
- ・夏休みを少し減らすなどして、もう少しコンパクトでも良いかも。

■内容について

*文法についての授業（前半）

- ・日本人なのに難しく、まして外国人に教えることは至難…
- ・文法は苦手なのですが、とてもわかりやすい楽しい授業でした

別添資料② アンケート結果

- ・ やってよかったです。改めて文法を意識できたし、教える時の自信にもつながった
- ・ 自分が文法について苦手なこともあり、正直たいへんでした。授業のカリキュラムの都合が大きいと思いますが、私のような素人には文法はハードルが高いです。もう少し時間をかけるか、やさしい日本語のウェイトを高めるか、見・ふれる授業時間があってもよかったと思います。しかし文法、言葉の使い方、伝わり方について学ぶうちに、数々の発見もあり楽しく学習できました。生徒に教えられるレベルまでは程遠いですが、模擬授業などを通じてよいイメージトレーニングになりました。

* 日本語教室の見学

- ・ 半強制のような状況がない限り、見学に赴くことはなかった…という方が多かったのでは？ 大変参考・勉強になりました
- ・ 実際の授業風景を見たことがなかったので、少々緊張して臨みました。特に、マンツーマンの授業は大変そうでした
- ・ 他の人のやり方はとても参考になった。研修する機会があり、皆さんスキルアップをしている態度に刺激を受けました
- ・ 現場での日本語教師の方々の工夫やテクニック、臨機応変な対応について実際に目にすることができ、大きな刺激になりました。各国の様々な境遇の外国人がいてびっくりしました。

* 具体的な事例から（後半）

- ・ ボランティア的にはとても身近な話題で、即実践的だと思いました。実際に午前中の外国人の方たちと模擬授業というのもおもしろいかも…。
- ・ 特に毎回楽しかったです。「してはいけないこと」「しなくてはならないこと」という大きな2本の柱の大切さを痛感しました。
- ・ 免許の取得、絵文字などの意味は、小学生も借りてかえる図書の中にもあります。日本で暮らす基本なんだと改めて考え到りました
- ・ どうすれば伝えたいことが伝えられるか、また伝わるかといったテーマでの授業だったと思います。伝わる言葉の選び方や使い方など今後に生かしていきたいです。

* 宿題

- ・ 一見簡単そうだったのに、実際に取り組んでみると非常に難しく、かなり負担になってきた…私だけかと思って落ち込んだ時期もあったが…話をしてみると、皆同様にしんどく思われていたとわかり、妙な安心を…

宿題をしんどく感じ始めた時期より参加人数も減ってきた気がしたのですが、社会人（？）生活人（？）にはやはり「宿題」という大きな壁は存在するような気がしました。その「宿題」を抱えた「夏休み」で開講時の意気込みやモチベーションが半減…それ以下に下がってしまったのでは…と感じました。結果的に残られたのが学生さんと日本語教師免許を持たれていたりの方々のみ。“ボランティアってもっと楽しいものだと思っていた”との欠席者の声は、やはり“甘い”と聞き流してはいけない大きな問題のような

気がしました。ボランティアに求められるレベルの認識が一定でないので、難しいところなのだろうと痛感いたしました。しかし、本当に素人の私たち（免許など持たない）がこの講座を終えて即ボランティアが出来るか？ はやはり無理だと思います。むしろ、何も学ばなかったままで、ネイティブの自信だけでスタートを切る方がボランティアとしては始めやすかったかもしれません。

- ・余り真面目に取り組まなくて、すみません
- ・楽しく、ちょっと負担に思いながら取り組みました。他の講座でも予習していかないについて行けないので、時間をとるのが少し難しかったので……
- ・正直大変でしたが、ふり返りとモチベーションをたもつ上では必要で、内容も今後の実践で役立つものであったと思います。発表はキンチョーしました。

＊講師について

- ・毎回授業に工夫を凝らして下さって、楽しんで講座を受けることができました。マレーシアのお話は何より面白くて、もっともっと異文化のお話を聞きたいです！
- ・私達のとても未熟な模擬授業などにも、適切なコメントを頂けてよかったです。
- ・話し方が心地良く、好感を持っていました。教えるツボを知っていらっしゃる方だと思っています。又講師でお願いしたい位です。
- ・とても丁寧な指導でわかりやすかったです。都合があわず来なくなった生徒もいましたが、教室として一体感をつくられていて、力量のすごさを感じました。

＊感想

- ・このコースを終えて、自分にできる何かをしてみたい！って人がたくさんいらっしまったのがわかりました。なのにみんな一人じゃ無理だ！とあきらめているということもわかりました。これから市民レベルの国際交流協会っぽいもんを作ります。ハードルの高くない、そして、外国人、日本人、総社人の垣根をとっぱらったもちろんギブアンドテイクなしちやるやっちやるから1歩進んだ組織を立ち上げます。負担にならない、楽しみながらできる集まり。理想ですが……少し儲けも…
- ・このコースを終えて、日本語を外国人に教えてあげることはとても難しいことだと思っている。しかしこれから何らかの形で、外国から人達が、日本で少しでも暮らしやすくなるお手伝いできれば、と思っている。
- ・このコースを終えて、この講座で学んだ事を何かで役立てれば嬉しいと思っている。これから又こういう講座があれば受講したい。来年の3月には今の仕事を卒業するので今より時間はできている。
職場でインフルエンザが流行り、私も体調を崩してしまいました。修了式に参加できなかったのが残念でした。
- ・このコースを終えて、自分なりにスキルアップにつながったと思っている。これから外

別添資料② アンケート結果

国人と接する際や仕事において、伝わる言葉で発信，コミュニケーションをとっていきたいと思っています。